

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいあるみすまい		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目 8-33		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503759&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503759&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流が盛んに行われ、事業所で毎年主催する「納涼祭」には地域の方々も招待し、ご家族様も多数参加して、バザーやゲームなどの催しを楽しんでもらっている。町内会の方も協力的で、事業所の行事には用具を貸し出してくれたり、災害時の協力体制等、多くの支援を頂いている。また、ホーム側からも積極的に地域のお祭りには参加し、理解を頂ける様働きかけています。スタッフのスキルアップの為に親睦を深める事を目的として、研修会や交流会も盛んに行われている。法人全体として「いつまでも美味しい食事を食べて頂けるように」と歯科医師による、口腔ケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の、定山溪温泉に向かう幹線道路沿いにある2階建て2ユニットのグループホームです。住宅地ですが緑が豊富で近くに公園もあり自然環境に恵まれています。建物は台所や居間、食堂が中央に配置され、全体が見渡せる造りになっており、使いやすいトイレ、浴室、エレベータなどの設備が整い、スプリンクラーや緊急通報装置なども設置されています。地域との交流が活発で、利用者が地域の祭りに参加したり、ホームの納涼祭や避難訓練にも地域の方々が手伝ったり、参加して頂いています。また、ボランティアの方の訪問もあります。管理者を中心に職員の間関係が良好に保たれ、利用者が安心してゆったり穏やかに過ごしています。食事の面でも、栄養士による献立に沿って、彩り豊富な食事が提供されています。系列の介護施設との情報交換や交流があり、法人内の協力体制も整っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付きやすい場所に理念を掲げ、日々業務に取り組んでいる。	ホームの理念の中に「地域に根ざして温かい福祉社会の実現を目指します」という文言を2年前に加え、地域密着型サービスの理念として確立しています。その他、介護指針やマナーを定め、共用部分に掲示し共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を通じ交流を計っている。また、ホームのお祭りにも地域の方に参加して頂いている。	町内会に加入し、祭りや草刈り、ごみ拾いなどに参加しています。ホームの納涼祭にも地域の方々が、手伝ったり、参加して頂いています。小学生の総合学習や踊りのボランティアの方も訪問して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「みすまい通信」を町内に回覧して頂き、ホームの様子を紹介している。近隣の小学校、児童会館との交流の機会を働きかけ小学校の児童の訪問があり理解を深めた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や事故報告、困難事例等報告し、意見、助言、ご要望を伺っている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会会長、福祉部長、民生委員などが参加し、行事や防災、事故、サービス評価などをテーマに活発な意見交換がされています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市、区の会議、連絡会に毎回出席している。区役所担当者にも都度相談し、協力を頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、情報提供をして頂いています。市や区の会議に管理者や職員が参加し、市の担当者と情報交換しています。また書類の作成など、不明な点を市の担当者に相談しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の意思を尊重し、尊厳を持って接する事を常に心掛けています。玄関の施錠はせず、職員見守りのもと、自由に入出入りしている。	身体拘束の弊害を理解し、具体的行為を示したマニュアルを整備しています。勉強会や外部研修でも理解を深めています。玄関は、日中は施錠していません。外出者がいる場合は、ドアのセンサーチャイムで分かるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、学んでいる。学んだことをホームに持ち帰り、他の職員へも内容報告をし、ホーム内でも学んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見については勉強会を行った。区役所、行政書士等と相談し必要な方へのアプローチをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族にお会いし、十分な説明をし、理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族参加により、機会を設けている。普段の面会時にもご家族様に入居者様の様子を伝えながら、意見を伺うようにしている。	介護計画を作成する際に、事前に家族の意見を聞いている。一方、運営推進会議への家族の参加は少なくなっており、議事録なども送付されていません。過去にアンケートを実施しましたが、意見の十分な活用には至っておりません。	運営推進会議に参加して頂く家族が増えるのが望ましいですが、難しい場合でも議事録を送付したり、事前に意見を聞くなどして、補完することを期待します。アンケートについても回答を選択式にするなど、提出しやすいような取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、法人内の会議に運営者、管理者、ユニットリーダーが参加し、意見、要望を聞く機会を設けている。日々の業務内や、ミーティング時にも意見を聞き、運営に反映している。	月1回のホームリーダー会議やミーティング、カンファレンス等で、職員同士が活発に意見交換しています。職員同士の食事会なども行っています。レクリエーションや食事、花壇管理など、職員が役割分担し運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時のサポ一体制を整え、祝い金も支給している。有給休暇消化推奨の為に人員配置を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内研修を行っている。また、必要に応じて外部の研修へ参加する機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の連絡会への参加を積極的に勧め、情報交換や交流につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と入居前にお会いし、状況を確認し、ご家族や関係者からも情報をお聞きしている。職員間でも情報を共有し、信頼関係を築けるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談や、ホームを見学して頂き、不安や要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報により、必要なサービスを担当者会議で話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちを尊重しつつ、敬う気持ちを忘れずに家事等をお手伝いして頂き、残存機能を把握しながら支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の様子をお伝えしながら、居室でゆっくりと過ごして頂いている。またホームの行事にもご家族に参加して頂き楽しませている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人もホームに訪問しやすいように、さりげなく気配りしている。ご家族の入院先へのお見舞いにも対応している。	知人や友人の来訪を歓迎しています。年賀状の返事書きを手伝うこともあり、読書が好きな利用者と本を買いに行ったり、レンタルビデオ店や喫茶店と一緒にいくこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には職員が間に入り、利用者同士の関係が良好なものとなる様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の理解があれば可能です。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の行動や言葉を職員間でしっかり申し送りして把握し、ミーティングでは意見を共有し、入居者様にとって居心地の良い、環境作りを努めている。	思いや希望を言葉で表現するのが難しい利用者もいますが、表情や行動から把握しています。センター方式のアセスメントシートに利用者の情報を記し、状況を見ながら作成し直しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経過や、ご家族からの情報を元に職員間で話し合い把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様、一人ひとりの一日のリズム、過ごし方、体調管理、好み等、現状把握に努め、それぞれに合わせて、見守っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話や行動から本人の思いを汲み取り、ご家族にも意見、ご希望をお聞きしながら、必要があれば見直し、現状に即した介護計画を作成している。	家族や利用者の意向を踏まえ、各利用者に対して、職員1名とケアマネジャーが中心に介護計画を作成し、カンファレンスを経て完成しています。介護計画は、3ヵ月毎に見直し作成されており、変化がある場合は、その都度見直しも行われています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の様子、変化を個別記録していません。また、ケアの実践、結果を話し合いの時間をもち、見直ししなければいけない面は見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望される、受診、買い物には可能な限り、対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区担当者と民生委員に連絡、相談しながら本人がより良い暮らしが出来るよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望を大切に、かかりつけ受診を行っている。	提携医療機関による月2回の往診を受けています。その他の医療機関への通院も支援しています。受診内容を受診結果報告書に詳細に記し、必要に応じて家族に伝えています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や皮膚の状態など、気づいた情報を伝え、相談しながら受診へとつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ情報を伝え、入院中は家族、医療機関とも連携をとりながら、早期退院に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の指針は説明している。重度化した場合はご家族様と話し合っている。常時医療が必要となった場合にはホームでの対応には限界があることも説明している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、同意書を頂いています。一方、当ホームでは看取りの経験がないため、看取りを行うにあたって、職員の心構えや知識について研修が必要です。		外部研修への参加や勉強会の実施により、心構えや知識について、職員が日頃から準備できるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の勉強会を受けたり、マニュアルを作成し、いつでも見れる場所に掲示している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災、避難訓練を実施している。また消防への自動通報システム、スプリンクラーもある。緊急時の連絡網、協力体制は整えている。	消防署の協力の下、年2回の夜間を想定した避難訓練を実施しており、地域住民の方々も訓練に参加して頂いています。職員の救急救命訓練も定期的に行われています。一方、水や食料など、災害時の備品の準備は十分とはいえません。		水や食料、簡易トイレ、防寒着など、災害時に必要となる備品について、再度確認し準備するよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けには注意をし、一人ひとりの人格の尊重をし、個性に応じて心に寄り添う声掛けを心掛けている。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本とし、利用者の希望する、より親しみのある呼びかけにする場合は、利用者の同意を得ています。職員の言葉遣いや態度で気づいた点があれば、その都度注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面において、こちらの押し付けにならないように配慮し、出来るだけ選択出来る声掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな日課としての時間配分はあるが、出来るだけ入居者様のペースに合わせ、その日を過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや気温に合った洋服を着て頂ける様な支援を行っている。化粧の習慣のある方には、化粧品を用意している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに参加して頂き、食事を楽しめるように配慮している。	栄養士が作成したメニューをもとに、バランスのとれた彩り豊富な食事が提供されています。利用者が盛り付けや材料の皮むき、食器拭きなどに参加しています。職員も一緒に会話しながら楽しく食事しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェックを行い、排便、排尿の状態を把握し、一人ひとりに合ったカロリーの摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを理解し、トイレで排泄出来る様支援している。	全員の排泄チェック表を作成してパターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、トイレ誘導を行っています。オムツやパッドを利用する方が増えていますが、日中は、出来る限りトイレで排泄するよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や運動等に参加して頂き、出来るだけ下剤の仕様を抑制している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に合わせ、入浴日時を配慮している。	日曜日以外を入浴日とし、利用者が週2回以上入浴できるようにしています。ゆっくり入浴できるよう、一人ひとりの時間を十分にとっています。また、安心して入浴できるよう、必要に応じて2人での介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を考慮し、日中は出来るだけ離床して頂いている。安心して気持ちよく眠れるよう配慮し、支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の体調を考慮し副作用についても確認して服薬の支援と症状の変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを理解し、役割と意識を持たせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、入居者様の希望に沿った支援出来るよう、努めている。（ご家族のお見舞いなど）	日々の日光浴のほか、買い物や通院など、個別の外出を支援しています。本屋やビデオ店、家族の見舞いに同行しています。また、年間行事として、花見や日帰り温泉、紅葉狩り、雪祭り見学などの行事も行っていきます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様個人での金銭管理は困難であるが、希望に応じ、積極的に買い物に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば迅速に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの一角に畳のコーナーを設置し、喫煙の習慣のある入居者様にはくつろいで頂いている。又、窓から庭の花を觀賞出来る位置にソファを置き、季節を感じて頂いている。	台所や居間、食堂が中央に配置され、全体が見渡せる造りになっており、共用空間には、利用者の作ったぬり絵や貼り絵、行事の写真が飾られ、親しみやすい雰囲気となっています。熱帯魚や雑誌が置いてあり、生活感を感じることができます。明るさや温度・湿度も、快適に過ごせるよう調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、自由にテレビ観賞や昼寝が出来る場所となり、気の合う入居者様同士の交流の場となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、衣類等、入居時に持ち込んで頂き、居心地良く生活出来るよう、配慮しています。茶碗、箸なども使い慣れた物を使って頂いています。	居室には、利用者が自宅から持ち込んだ家具やテレビ、冷蔵庫など、馴染みの物があり、居心地良く過ごせる場所となっています。壁には、行事での写真や寄せ書きなどを自由に飾ることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床材はクッションフロアーにし、住環境を整えている。入居者様の残存機能を活かし、生活が続けられるよう手すりの場所の変更も行っていきます。		